

# ラーメンから歴史まで 杉並を多角的に学べる「すぎなみ学倶楽部」



すぎなみ学倶楽部  
TOP ページ



情報収集・  
資料活用に

杉並区内の歴史から寺社、まつり、イベント、区民ライターが選んだ飲食店の魅力などをジャンルごとにわかりやすく紹介しています。掲載している写真や記事の貸し出しについては当サイト内の「本サイトについて」をご覧ください。

調べごと・  
見学先のヒントに

「ゆかりの人々」コーナーでは、杉並区にゆかりのある著名人や地域活動者などを紹介しています。また、「産業・商業」コーナーでは、取材した企業・店舗を紹介し、施設の中には見学を受け付けているところもあります。



まち別に  
情報検索が可能

「高円寺」の「ラーメン店」、「JR 中央線」の「お花見ポイント」、「高井戸」の「ゆかりの人々」など、区内のさまざまな情報をエリアとジャンルごとに「まち別検索」サイトで検索できます。駅ごとに歴史や見どころを紹介する「まち別ダイジェスト」も順次公開。

## すぎなみ学倶楽部 ダイジェストブック2020

令和2年3月発行

登録印刷物番号

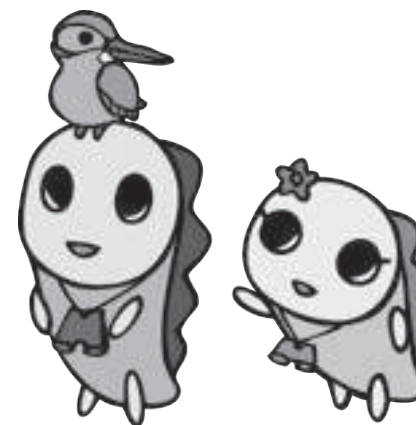
31-0120

発行 杉並区区民生活部産業振興センター観光係  
問い合わせ 〒167-0043 上荻1丁目2番1号 Daiwa荻窪タワー2階  
電話 03-5347-9184  
編集・レイアウト 特定非営利活動法人 チューニング・フォー・ザ・フューチャー  
取材・執筆・撮影 杉並区民ライター

杉並区公式情報サイト

# すぎなみ学倶楽部 ダイジェストブック

2020



© SUGINAMI CITY

杉並区公式情報サイト「すぎなみ学倶楽部」は  
区民ライターが杉並のさまざまな魅力を発掘し、発信しているウェブサイトです。  
本冊子では、ウェブサイトに掲載している記事の一部を紹介しています。

www.suginamigaku.org

## 写真で振り返る「杉並の昔と今」

昭和初期～中期の杉並の写真と、2020（令和2）年の写真を比較してみよう。



1935（昭和10）年頃  
高井戸東3丁目付近（大西路男さん寄贈）



2020（令和2）年  
高井戸丸太緑地

### 高井戸の杉並木

江戸時代、区内では杉が多く植林され、高井戸丸太（四谷丸太）として江戸に出荷されていた。高井戸は1985（昭和60）年頃まで、周囲に杉林が広がっていたという。



1950（昭和25）年  
桃園川（提供：広報課）



2020（令和2）年  
桃園川緑道

### あんきよ 暗渠になった桃園川

桃園川は、天沼3丁目にあった弁天池を水源の1つとし、中野方面で神田川に合流していた。大雨などで度々水害が起こり、1967（昭和42）年に暗渠化され、その上に桃園川緑道ができた。



1953（昭和28）年の出版物  
明治天皇荻窪御小休所



2020（令和2）年  
移築復元された長屋門

### 明治天皇行幸時の休息所

かつて荻窪に、明治天皇が1883（明治16）年4月の行幸時に休息所として利用された建物があった。現在は、17階建ての藤澤ビルの南側に、御小休所と長屋門が移築復元されている。



1963（昭和38）年  
都電杉並線廃止記念電車（提供：広報課）



2020（令和2）年  
青梅街道、杉並区役所前

### 青梅街道を走った都電

大正末期から昭和30年代にかけて、杉並に路面電車が走っていた。路線の名称は都電14系統。通称「都電杉並線」と呼ばれ、荻窪と新宿をつなぐ身近な移動手段として利用されていた。

## 終戦前に出現！ わが町ウォーターシュート物語



（提供：岸弘子さん）

ウォーターシュートとは、10人程のお客さんを乗せたこじんまりした平底ボートが、高所から水面に向かって傾斜面を一気に滑り降り「バシャーン」と水しぶきを上げて着水する、という何ともスリルに満ちた遊具。そんな壮大なアトラクションとも呼べるものが、終戦前の和田堀公園（旧・大宮公園）にあったという。



歴史>記録に残したい歴史>  
終戦前に出現！  
わが町ウォーターシュート物語

### 当時をご存じの方の話

「ウォーターシュートが出来たのは、確か昭和13年頃だったと記憶しております。右の写真は、その建て前・棟上げ式に関係者の皆さんで撮ったもので、裏に「昭和13年の頃」と記してあるので、ほぼその頃だと申し上げてよろしいでしょう。」  
「私の父は、ウォーターシュートの船頭をしていました。船頭は、平底ボートの船首に何にもつかまらないで立って、斜面を滑走中もバランスを保ち立ち続け、着水の瞬間、水しぶきと同時に今度は空中にジャンプして、またまた船首に着地するという技をやったのけるのです。」





## アンネのバラ 咲かせ続ける平和の願い



アンネのバラ。毎年春と秋に、高井戸中学校で一般公開されている



歴史>【証言集】アンネのバラ 咲かせ続ける平和の願い

杉並清掃工場西側の広場にある「アンネ・フランクのバラ花壇」

### アンネのバラとは

高井戸中学校の校庭に、第二次世界大戦時にナチスの強制収容所で15歳で命を落としたユダヤ人の少女、アンネ・フランクゆかりのバラがある。「アンネのバラ」の愛称で知られるこのバラは、国語の授業で『アンネの日記』を読み、彼女の生涯を学んだ生徒たちの願いに答えて、1976（昭和51）年にアンネの父・オットー氏から寄贈されたもの。以来、平和を願う高井戸中学校のシンボルとなっている。

### 地域の「アンネのバラ・サポーターズ」

2004（平成16）年に生徒によるアンネのバラ委員会が発足した時からバラ栽培に協力しているのが、地域の協力組織「アンネのバラ・サポーターズ」だ。PTA役員OBを中心に、保護者、近隣のバラ園芸家など多彩なメンバーが参加している。現在、月1回の生徒の作業をサポートする他、メンバーであるバラの専門家・川池道代さんを講師に、定期的にバラ栽培の講習会を実施。季節ごとに必要なバ

ラの手入れを行っている。代表の鳥生千恵さんは、元・PTA会長。「バラを育てている中で、子供たちの成長も実感できる。それが活動の原動力です。大人が全部やってしまっっては、生徒が主役にならない。だから堆肥作りや芽つぎなど専門的な作業もすべて一緒にやります」

### 杉並清掃工場への株分け

杉並清掃工場は、2017（平成29）年に建て替え工事が完了し、新工場が稼働した。敷地の西側に設置された広場には、高井戸中学校から株分けされた「アンネ・フランクのバラ」を中心とした花壇があり、地域のボランティア団体「杉並清掃工場アンネ・ロザリアンの会」と、清掃工場の職員と一緒に手入れ作業をしている。



文化・雑学>杉並のさまざまな施設>杉並清掃工場

高井戸中学校の記事執筆から4年後。今度は、杉並清掃工場で咲き誇るバラの姿を取材できて感無量でした。平和を願う地域の協働が、着実に広がっていることを実感しました。（区民ライター：内藤じゅん）

## 杉並区の交流自治体

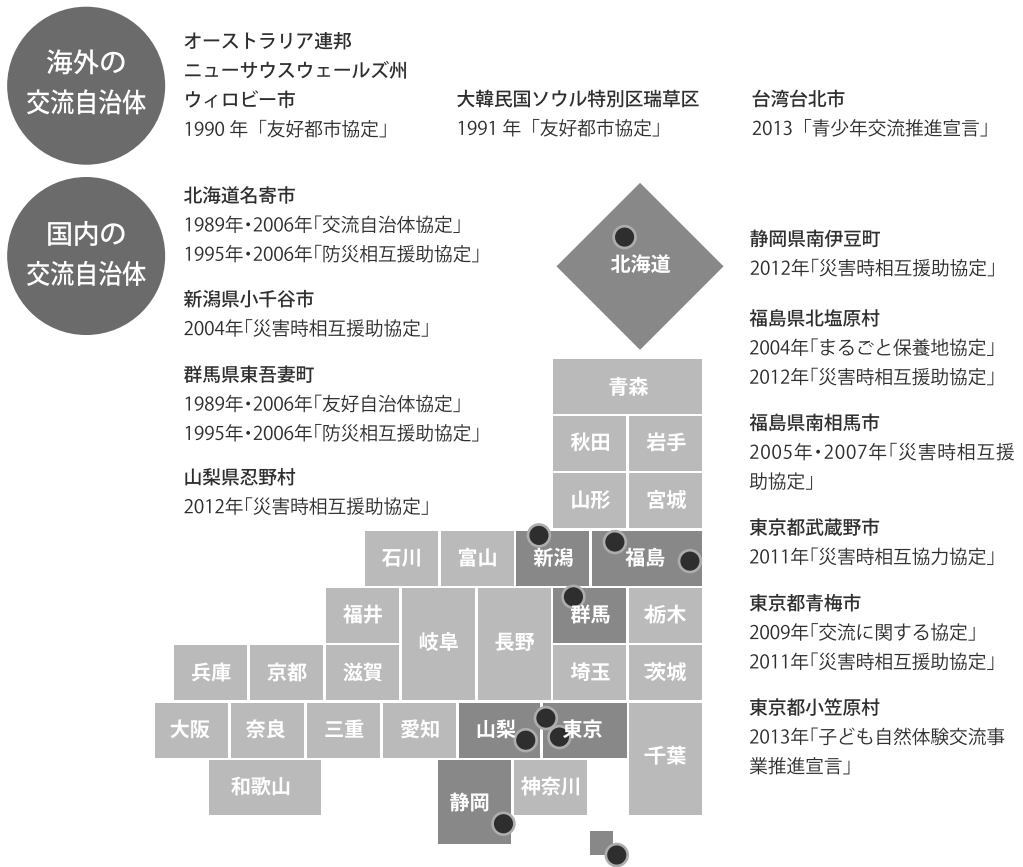
杉並区は国内外13の自治体と協定等を通じ、子供たちの交流や物産展などを通して友好の輪を広げている。また、防災に関わる協定を結んでいる都市もあり、災害が発生した場合、両自治体が互いに協力し、応急・復旧対策を行うこととなっている。



文化・雑学>杉並区の交流自治体と宿泊施設



交流自治体には自然豊かで四季折々の風景が楽しめるところが多い。写真は福島県北塩原村、五色沼の1つ、毘沙門沼。エメラルドグリーンの水が美しい



## 杉並区と東京2020オリンピック・パラリンピック



2020（令和2）年、56年ぶりに東京で開催される平和の祭典に向けて、杉並区でもさまざまな取り組みが実施される。

永福体育館のビーチバレーコートは、キャンプ決定の周知、及びチームを応援するため、横断幕を掲げている



スポーツ>杉並のオリンピック・パラリンピック

### イタリアビーチバレーボールチームの事前キャンプ地

永福体育館に、国際基準を満たすビーチコートがある。都内でも珍しい本格的な設備で、イタリアビーチバレーボールチームの事前キャンプ地に選ばれた。オリンピック代表選手が区内で練習をするということで、日本チームのみならずイタリアチームへの親近感がわき、ビーチバレーへの関心と共に応援の声も高まることが期待される。

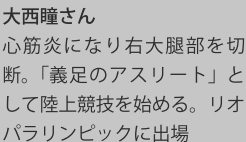
### すぎなみ版ボランティア「TEAM NAMISUKE」発進

2019（令和元）年よりスタートした、すぎなみ版ボランティア「TEAM NAMISUKE（チームナミスケ）」。東京2020大会を契機に始めたボランティアが一過性のものとならないよう、大会後も続いていく仕組みを整えた。多くの区民がボランティアに参加し、誰もが障害者や高齢者、小さな子供連れの方などに配慮した行動ができる「心のバリアフリー」の実現を目指す。

### オリパラゆかりの杉並の人



**佐々木秀幸さん**  
スポーツ解説者、指導者。日本陸上競技連盟のコーチ、役員としてオリンピックに参加したほか、専務理事として組織の強化に奔走



**大西瞳さん**  
心筋炎になり右大腿部を切断。「義足のアスリート」として陸上競技を始める。リオパラリンピックに出場



**渡邊高博さん**  
400mと4×400mリレーでバレーセラナオリンピックに出場。現在はスポーツ選手のパーソナルトレーナーとして活躍



## 荻窪で暮らした版画界の世界的巨匠 棟方志功さん

棟方志功（むなかた しこう 1903-1975）は、ヴェネツィア・ビエンナーレで国際版画大賞（グランプリ）を受賞するなど、世界的な評価を得た版画家である。色鮮やかで力強いタッチの作品が、切手や包装紙、ポスター、本の装丁や挿画などにも使われているので、目にしたことのある人も多いのではないだろうか。版画以外にも、肉筆画の倭画（やまとが）、油絵、書、著書なども数多く残しており、自らの木版画を「板画（はんが）」と称するなど独特な言葉遣いにも特徴があった。



ゆかりの人々>杉並を駆け抜けた人々>棟方志功さん

スケッチする棟方志功と、孫の石井頼子さん。1963（昭和38）年に京都の伏見稲荷大社にて撮影（写真提供：石井頼子さん）



### 石井さんが語る祖父・棟方志功の思い出

棟方の長女、けようの娘にあたる石井頼子さんは、小学校2年から中学校2年まで、荻窪の家で祖父と暮らしていた。当時の思い出として、「海外でのグランプリが続き、人気が出て非常に忙しくなりましたが、棟方は仕事の依頼をほとんど断りません。そこに「民藝（みんげい）」ブームも重なって、毎日大勢の方が訪ねて来られました。人にはいつも良い顔を見せたい棟方でしたが、仕事の時間を奪われるのは悩みの種でした。祖父が仕事に集中できるよう、人払いをするなどの役割は祖母のチャヤが担っていました」と石井さんは振り返る。また、棟方は極度の近視だったが、晩年には隻眼弱視になり、「祖母から『パパの目は仕事以外に使っちゃだめ』と言われてましたが、祖父は祖母の目を盗んでは贈呈された本を読んだり手紙を書いたりしていました」と話す。その言葉からは、好奇心が枯れることのなかった棟方の姿が想像できる。

1966（昭和41）年に棟方は脳梗塞で倒れ、鎌倉の別荘で過ごすことが多かったが、愛着を持っていた荻窪に戻り最期を迎えた。相撲好きで阿佐谷

にあった花籠部屋と付き合いがあったことから、大関・先代貴ノ花の浴衣を着せてもらい、横綱・輪島が場所中であるにもかかわらず遺体を納棺したそうだ。貧乏で尋常小学校しか出ていない境遇を全く苦にできなかったという棟方について、石井さんは「子供の頃は祖母に近い目線で祖父を見ていましたが、大人になってから祖父の気持ちがぐみ取れるようになりました。今話が聞けたら非常に面白いだろうと思います」と、尽きない思いを語ってくれた。



1957（昭和32）年に区立天沼中学校に寄贈された「春夏秋冬図」。現在はレプリカが飾られている

自分が長年暮らしている地域に、かつて棟方志功が住んでいたことを知り、驚きました。身近に接した方々からお話を伺うこともでき、今後は作品を見るときは理解も深まりそうです。（区民ライター：矢野ふじね）



## 日本のアニメを知るならココ！

杉並会館内に日本で唯一、日本のアニメ全般を紹介する施設、東京工芸大学 杉並アニメーションミュージアムがある。見どころの一つ「日本のアニメの歴史」コーナーでは、日本のアニメが始まってから現在までを年表や画像・映像でわかりやすく紹介している。年表にはさまざまなトピックが掲載されており、日本のアニメ市場が年々大きくなっていったことがよくわかる。どの年代の人も自分が子供の頃に見ていたアニメのタイトルを見つけ、懐かしい気持ちになるに違いない。



東京工芸大学 杉並アニメーションミュージアム、「日本のアニメの歴史」コーナー



歴史>アニメのまちができるまで

## 杉並のアニメ制作会社

杉並区は、アニメ制作会社が数多く集まるアニメシティでもある。名作を生みだしている各社のクリエイターや広報に、ポリシーやチャレンジしたいことなどを伺った。

産業・商業>杉並のアニメ



### スタジオ地図

#### 代表取締役

齋藤優一郎さん

映画監督・細田守の制作拠点であり、アニメーションという表現で映画を作る、世界で最も小さな映画制作スタジオです。映画を作る動機は常に自分たちの中にあ



「バケモノの子」  
(提供：スタジオ地図)  
©2015 THE BOY AND THE BEAST  
FILM PARTNERS

り、誰に与えられるものでもありません。だからこそ、監督と私は既存のスタジオではなく、自分たちの制作拠点を求めました。細田監督は常に子供と大人と一緒に楽しめるアニメーション映画の可能性にチャレンジをして、「時をかける少女」や「サマーウォーズ」など、多くの作品を作ってきました。スタジオ地図としては、「おおかみこども雨と雪」が第1回企画・制作作品です。2015(平成27)年には「バケモノの子」を世界49の国と地域に配給しました。

### 株式会社MAPPA

#### 代表取締役

大塚学さん

「この世界の片隅に」では、国内外の賞を受賞できて、特に映画作品として評価してもらえたことは大変うれしかったです。企画そのものはMAPPA設立時にはあったのですが、「戦争映画だから」「タイムリーでない」などの理由でなかなか資金が集まらず、かなり苦戦しました。風向きが変わったのはクラウドファンディングを実施してからで、それ以降は資金面でもゴールが見えてきました。結果として最高の評価を得ることができ、夢が実現したという感じもありました。



「この世界の片隅に」  
(提供：株式会社MAPPA)

これからもクリエイターが熱を持って創りたいと思える作品づくりを続けていきたいですし、賞レースで勝てる作品も創っていきたいです。

## 杉並のキャラクター

文化・雑学>杉並のキャラクター



2006(平成18)年に「すぎなみアニメキャラクター」を募集したときに、計281件もの中から最優秀賞に選ばれた「なみすけ」。区内で見られるキャラクターと合わせて紹介。



なみすけ

生みの親は、杉並区在住だった五味由梨さん。背びれは、空気をキレイにすることができる。かたちは、杉並木がモチーフ。よく芋虫と間違われがちだが、れっきとした妖精。



西荻窪のピンクの象

現在の象は三代目。普段は西荻南口仲通り商店会のアーケード天井にぶら下がっており、9月の荻窪八幡神社の例大祭では、商店会の催しとして、子供たちに引かれて町内を練り歩く。



金太郎(車止め)

1972(昭和47)年ごろから、フタをしたり埋めたりした水路などの表面が、子供たちが安心して遊べる遊歩道として整備され始めた。その際、車などの進入を防ぐ車止めとして、この看板を採用。



「とまれ」の路面ステッカー

児童の飛び出し事故防止策として設置されているカラフルな動物マーク。パンダ、ライオン(正面、横)、イルカ、ワニのほか、「なみすけとナミー」を使用した杉並区オリジナルの絵柄もある。

# 読書のススめー杉並ゆかりの本

杉並が舞台として登場する本や、杉並に関連がある著者の本などを紹介。



文化・雑学>  
読者のススめー杉並ゆかりの本

## 1Q84



著:村上春樹  
(新潮社)

小説家の卵の男性と、殺し屋の女性が主人公の3部作。それぞれの物語が交互に描かれ、徐々に交差していく。高円寺の児童公園は重要な舞台。

## ドラママチ



著:角田光代  
(文春文庫)

高円寺、阿佐谷、荻窪が舞台。満たされぬ思いを胸に抱き、何かを待ち続けて、単調な日々を生きる女たちの心情がにつづられた8つの物語。

## 荻窪風土記



著:井伏鱒二  
(新潮文庫)

1927(昭和2)年に荻窪に移り住んだ著者が、関東大震災から太平洋戦争後まで時代の流れを背景に、荻窪での文筆生活をつづった自伝的作品。

## 「阿佐ヶ谷会」文学アルバム



監修:青柳いづみこ、川本三郎  
(幻戯書房)

井伏鱒二、上林暁ら、阿佐ヶ谷会のメンバーや関係者に関する著述を収録。作家たちの青年期から老年期に至るドラマを感じさせてくれる。

## 置かれた場所で咲きなさい



著:渡辺和子  
(幻冬舎)

渡辺さんは9歳の頃、父・錠太郎さんを二・二六事件で亡くした。傷つき悩んだときに心を穏やかにする方法を、40のメッセージで紹介している。

## 阿佐ヶ谷姉妹のほほんふたり暮らし



著:阿佐ヶ谷姉妹  
(幻冬舎)

お笑いコンビ「阿佐ヶ谷姉妹」の初エッセイ集。阿佐ヶ谷暮らしをリレー形式でつづっているほか、書き下ろし恋愛小説2編が挿入されている。

## 西荻にいたピンクの象



編著:西荻案内所  
(西荻案内所)

西荻南口仲通り会のアーケードに飾られ、親しまれているピンクの象。老朽化した二代目の象の保存に関わった人々と、地域のやりとりの記録。

## 北欧女子オーサが見つけた日本の不思議



著:オーサ・イエクトロム  
(メディアファクトリー)

スウェーデン出身で、杉並で暮らしていたこともあるオーサさんのコミックエッセイ。日本文化に触れて感動したことなどが描かれている。



## INTERVIEW

作家  
角田光代さん インタビュー

### ●プロフィール

1967年、神奈川県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。1990年『幸福な遊戯』で海燕新入文学賞、2005年『対岸の彼女』で直木賞ほか、多くの文学賞を受賞。



ゆかりの人々>著名人に聞く 私と杉並 > 角田光代さん

### 「人生の半分以上、杉並で暮らしています」

21歳、大学生の時に東京で一人暮らしを始めました。最初は通学に便利な中野に住んでいたのですが、24歳の時に、南阿佐ヶ谷に引っ越してきました。“友達を呼んで夜中まで宴会ができること”など、住まいに対する条件が多すぎたせいか、なかなか理想の住まいが見つからず、その後も荻窪、西荻窪など、区内で引っ越しを繰り返しました。その中で一番長く住んでいるのは西荻窪です。街の規模が大きすぎず、ちょうどいい感じです。また、個人商店が多いところも気に入っています。八百屋さんでは旬のものや、野菜の調理法を教えてもらったりできますし、肉屋さんでおいしい惣菜を買ったりもしています。その上、お気に入りの居酒屋もたくさんあって。これからも、ずっと西荻窪に住み続けようと思っています。中央線沿線の街を舞台に書いた『ドラママチ』(P10参照)という小説がありますが、これは杉並在住の編集者の依頼で書きました。編集者の“杉並愛”に押された感じです。

すね。長い時は18kmくらい走ることもあります。平均して10kmくらい走ります。運動が好きというわけではなく、やり始めたらやめるのが面倒なので続けているという感じです。

また、33歳の時に失恋をしたのがきっかけでボクシングを始めました。メンタルを強くしたくて。近所に輪島功一さんのジムがあったので通い始めました。ランニングは、走っている時に夕飯の献立とか仕事のことも考えられるけど、ボクシングはきついので完全に何も考えられなくなります。頭が空っぽになれるのがいいんでしょうね。でも、体幹が鍛えられてないせいか、あまりうまくはなりません。どれだけやっても、どこかおかしい気がしています。



杉並区のキャラクターなみすけのバッグがお気に入り

### 西荻窪で続けていること

近所の都立善福寺公園と、そこから川沿いに伸びる都立善福寺川緑地が好きです。週末は、西荻窪から阿佐谷方面に向かってランニングしています。この川沿いの道は四季折々の変化があっという

前半の杉並愛にあふれるお話や、後半の角田流仕事術から、暮らしにも仕事にも真剣な姿が伝わってきました。インタビュー後、西荻の街を歩き、改めてその魅力を堪能しました。(区民ライター:磯部恵子)





## 杉並メダカ

荻窪生まれの須田孫七(すだまごしち)さん宅で飼育されていた上井草・四宮の田んぼ生まれのメダカは2007(平成19)年12月、東京都の野生生物保全センターのDNA検査により東日本に生息した純血種のDNAを持つ貴重なメダカであることが判明。学術的に衝撃を巻き起こした。



自然>杉並メダカ

## 故・須田孫七さんインタビュー

—— 須田さんのご自宅で60数年外来種と交雑することなく在来種のメダカは生き延びたのはなぜでしょうか？

**須田** 屋上池には250種類以上の植物があるんですよ。メダカは池と屋上の池と合わせて今は数百匹はいますよ。うちには今、カエルが十数匹棲んでいます。で、私は落ち葉を集めて腐葉土を作ってカエルのエサになるミミズやダンゴムシを発生させているんです。「エサをやる」と「ペット」になってしまいます。私はエサを作るだけで彼らが勝手にそのエサを食べています。

—— 小学校5年生の1942(昭和17)年、戦時下の空襲爆撃で善福寺川の生物が絶滅しないよう桃井第二小学校の西沢二郎先生と川の生物を校庭の池と井の頭分園の水族館に集めたそうです。

**須田** 私が今このように昆虫を研究するようになったのは、やはり西沢先生の影響があると思います。とても熱心な先生でした。ノーベル物理学賞を受賞した小柴先生も言っていました。科学者を目指す人というのは小学校時代の先生の熱意で決まる事が多いですね。

—— ノーベル賞を受賞した研究者が「子供の頃

は全然勉強しなかった」、「一日中、虫を眺めてました」というコメントがありますが。

**須田** 確かに小さい頃から自然に親しむ事が大切だと思います。でも、ただ眺めているだけじゃダメで、ある年齢になったら、きちんと受験勉強をしてもらわないと大学には入れません(笑)。最近の学生は東大に入る事が目標で勉強してる人が多いので入ってからやりたいものがわからないなんてことが結構あります。

医学部もそうですが少なくとも生命を扱う研究をしたい人は「生物」を勉強してもらわないと困ります。私は学生に子供の頃に昆虫を触った事があるか必ず質問しますよ。



### ●プロフィール

1931年-2018年。杉並区生まれ。東京大学総合研究博物館協力研究員。学研の「科学」と「学習」の記事も執筆。

## 杉並区内に生息するセミの種類・セミの一生



セミが羽化する姿はたいへん神秘的な、生物の成長シーンである。毎年8月の初め頃、杉並区内の緑地などで夜間よく見ると美しいセミの誕生を目にすることができるが、気候の変化により毎年その時期は少しずつ違う。

すぎなみ学クラブでは、神秘的なショーを観察し、記録することができるよう、アイデアとアドバイスを紹介している。自由課題にも使えるワークシートもサイトからダウンロードできるので、夏休みの自由研究にも役立ててほしい。



自然>セミ



### 区内に生息する主なセミ



**アブラゼミ**

7月初旬～9月下旬頃まで  
鳴き声を聞くことができる



**ミンミンゼミ**

7月中旬～9月中旬ごろ、アブラゼミよりも少し遅れて出てくる



**ニイニゼミ**

6月下旬～7月初旬に現れ、8月中旬頃まで聞くことができる



**ツクツクボウシ**

8月中旬～9月あたり、夏の終わりごろによく見られる



**ヒグラシ**

7月から9月くらいまで見られるが、近年都会でめっきりと数が減った

## 杉並の産業・商業

戦禍を乗り越えた老舗企業・商店、都市型産業・商業・農業、人物を紹介。伝統職能を生かし都会で働く職人、杉並に多いアニメーション業界(2016年度138社)など、日常の生活では出会うことの少ない産業や職業、意外な名物企業がわかる。

### ●杉並の企業

杉並児童合唱団	「杉児」の愛称で知られる合唱団(西荻窪)
(株)リード社	『ゴルゴ13』のコミックを出版(高円寺)
日都産業(株)	遊具・健康器具メーカー(西荻窪)
東信水産(株)	荻窪タウンセブンの名店(荻窪)
(株)チャイルド社	保育園経営と保育誌の出版(荻窪)
(株)タマス	卓球用品のトップブランド(南阿佐ヶ谷)
オーデリック(株)	照明器具の専門メーカー(高井戸)
根本特殊化学(株)	夜光塗装加工と販売(高井戸)
サミット(株)	区内に9店舗あるスーパー(西永福)
丸美屋食品工業(株)	「のりたま」でお馴染み(西荻窪)
(株)細田工務店	木造戸建住宅メーカー(阿佐ヶ谷)
(株)カノウブス	国内外で人気のドラムを製造(高井戸)
岩崎通信機(株)	大手通信機器メーカー(久我山)
マグナ通信工業(株)	セキュリティ機器の開発・施工(永福町)
(株)ヴァル研究所	元祖、路線検索ソフトを開発(高円寺)
(株)パナ・ケミカル	発泡スチロールのリサイクル(八幡山)
(株)アイネットホールディングス	ショールームのある菓子問屋(永福町)
ケンコーマヨネーズ(株)	業務用総菜、調理ソースを販売(高井戸)

### ●老舗企業・老舗商店

いづみ工芸店	棟方志功も通った工芸品店(荻窪)
カナモノワタナベ	太宰治の小説にも登場(阿佐ヶ谷)
竹清堂	進化する竹工芸の店(桜上水)
ビリヤード山崎	日本最古級のビリヤード場(西荻窪)
前田豊吉商店	創業300年、鍼灸鍼の老舗(荻窪)
石井薬局	ニーズに応え続ける薬局(阿佐ヶ谷)
(株)小泉	明治創業の住宅設備関連企業(荻窪)
万田サイクル	山あり谷ありの自転車屋稼業(荻窪)
岩崎通信機(株)	通信産業のバイオニア(久我山)
三原堂	愛される昔ながらの和菓子店(西荻窪)
酒のみつや	長年信頼されてきた酒店(阿佐ヶ谷)
丸美屋食品工業(株)	日本の食卓を支え続ける(西荻窪)

### 【その他のカテゴリ】

杉並の農業	都市農業の様子と伝統野菜の研究
杉並のアニメ	制作会社のポリシーやチャレンジ
記憶に残したい伝統職	和裁師、扇師など、希少な職人の姿
杉並モノ語り年表	1960～1990年代を支えた企業

## ゆかりの人々

杉並区にゆかりのある人々を紹介。第一線で活躍する現役のタレントや作家、知る人ぞ知る「知られざる偉人」(故人)、専門分野でめざましい活動をする地域活動者、100歳を超える現役女流画家など、地元愛を感じるコンテンツ。

### ●著名人に聞く 私と杉並

角田光代	直木賞作家。ベストセラー多数(西荻窪)
金田一秀穂	言語学者。テレビでも活躍(阿佐ヶ谷)
勅使川原三郎	国際的ダンサー・振付家(荻窪)
マシュー・チョジック	アメリカ出身のタレント(阿佐ヶ谷)
輪島功一	元ボクシング世界チャンピオン(西荻窪)
増子直純	ロックバンド「怒髪天」を率? (西荻窪)
有吉玉青	作家。母有吉佐和子との思い出
久住昌之	漫画家・ミュージシャン
具志堅用高	元ボクシング世界チャンピオン(西永福)
水道橋博士	タレント・作家(高円寺)
津田大介	ジャーナリスト。ネット世代の代表(高円寺)
横山健	ミュージシャン・ギタリスト(高井戸)
ねじめ正一	作家・詩人(阿佐ヶ谷・高円寺)
林家木久扇	落語家。「笑点」のレギュラー(西荻窪)
山下洋輔	世界的ジャズピアニスト(阿佐ヶ谷)

### ●知られざる偉人

有馬頼寧	有馬記念を創った華族政治家(荻窪)
下中弥三郎	平凡社の創業者(阿佐ヶ谷)
石山太柏	武蔵野の風景を愛した日本画家(荻窪)
江渡狄嶺	大正時代に活躍した農の哲人(高井戸)
関村ミキ	江渡狄嶺を支えた妻(高井戸)
手塚忠四郎	芸術の領域に達した左官職人(方南町)
飯沼金太郎	パイロット、民間航空学校を設立(西荻窪)
田河水泡	漫画家。『のらくろ』の生みの親(荻窪)
奥村土牛	大正・昭和を代表する日本画家(西永福)

中西悟堂	日本野鳥の会創設者(西荻窪)
小川未明	日本のアンデルセンと呼ばれた童話作家(東高円寺)
山本美香	最後まで戦場を伝えたジャーナリスト(荻窪)
南雲武門	地域情報新聞「杉並町報」を創刊(阿佐ヶ谷)

### 【その他のカテゴリ】

道を究める	特定分野のスペシャリスト
芸術家たち	創作・芸術の道で生きる
教育を支える	教育現場や教育支援に関わる
地域をつなぐ	地域活動等で人や物事をつなぐ
まちのアーティスト	若手作家やパフォーマンサー
スポーツに携わる	スポーツや健康問題に取り組む
経営者・起業家	唯一無二を目指す企業家
杉並を駆け抜けた人々	一時期を杉並で暮らした文化人

## 歴史

後世に伝えたい、残したい杉並の歴史を紹介。杉並にもあった「二・二六事件」、「中島飛行機」の軌跡、ラストエンペラーの実弟に嫁いだ令嬢「嵯峨浩」など、歴史的事象の証言集・記録集や、惜しまれつつ消えてしまった杉並名物の復刻活動など、区民の気になる歴史を掘り下げる。

### 杉並の変遷／記録に残したい歴史

#### 【証言集】中島飛行機 軌跡と痕跡

#### 【証言集】アンネのバラ 咲かせ続ける平和の願い

#### 【証言集】杉並の養蚕と蚕糸試験場

#### 杉並名品復活プロジェクト

#### 歴史資料集／アニメのまちができるまで

#### 杉並区に残る戦争のつめ跡

#### 道具に見る昭和の暮らし

#### 【記録集】杉並にも公民館があった

#### 【証言集】戦争体験

## 食

杉並の区民ライターがすすめるレストランなど、合計290店以上の情報をジャンル別で紹介。老舗の名物、隠れ家的カフェ、こだわりのスイーツはもちろん、激戦のラーメン店も約80軒を紹介。杉並独自のヘルシーメニュー推奨店の紹介も参考に。

#### ラーメン／カレー／スイーツ

#### 喫茶店(イートイン含む)／ベーカリー／レストラン

#### ヘルシーメニュー推奨店／惣菜・飲料・その他

## スポーツ

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の注目競技や、杉並発祥のスポーツ、楽しみ方などを幅広く紹介。ラジオ体操やボウリングといった身近なスポーツにも、杉並区は実は大きく関わっている。スポーツの奥深さが実感できるコンテンツ。

### 杉並のオリンピック・パラリンピック／ラグビー

#### 野球／サッカー／マラソン／格闘技

#### ガーデンゴルフ／ボウリング／水泳

#### ラジオ体操／運動会攻略／その他のスポーツ情報

## 文化・雑学

文化的なまち、杉並にふさわしい情報が満載。杉並を舞台にした文芸や漫画、杉並らしいおみやげ、著名人や外国人のお気に入り散歩コースなどを紹介する。また、年末年始や秋の例大祭など超ローカルな寺社情報は、役立ち度ナンバーワン。

### 読書のススメ杉並ゆかりの本／杉並の寺社

#### 杉並みやげ／なみすけグッズ

#### 杉並のキャラクター／杉並の景観を彩る建築物

#### 杉並のイベント／杉並のさまざまな施設

#### 杉並のアートスポット／杉並の古書店

#### 杉並の芸能／杉並まちあるき

#### 杉並区の交流自治体と宿泊施設／杉並イチバン

## 自然

荻窪で発見された絶滅危惧種や、杉並をねじろにする野鳥など、都会の自然に親しめるコンテンツ。「日本のフェアブル」と呼ばれる須田孫七さんの解説つき「杉並メダカ」や「トンボ」をはじめ、セミの羽化観察やヤゴ救出作戦など、地域密着の自然情報が満載。

#### 野鳥／杉並メダカ／トンボ／セミ

#### 貴重木／おどろき、もものき、杉並の木

## 特集

ジャンル外の特集記事のほか、「広報すぎなみ」に連載している「すぎなみ学倶楽部コラム」のバックナンバーを、2010年度版からアーカイブとして掲載。

#### お花見ポイント／公園に行こう／災害・防災

#### 杉並の教育／杉並の専門学校

#### 杉並の私立高等学校／杉並の地域活動

#### 広報すぎなみ掲載コラム集

#### 開設10周年記念特別対談シリーズ